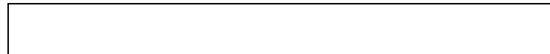


# 首都大学東京帰国留学生短期研究支援制度 平成30年度 研究報告書

## <外国人研究者プロフィール/Profile>

外国人研究者	李舜炯
Foreign Researcher	LEE, SOONHYUNG
国籍	韓国
Nationality	KOREA
所属機関	国立慶北大学校
Affiliation	Kyungpook National University
現在の職名	講師
Position	Lecturer
研究期間	2018. 07. 20～2018. 08. 28
Period of Stay	2018.07.20～2018.08.28
専攻分野	日本語教育学、社会言語学
Major Field	Japanese language Education・Sociolinguistics



受入研究者	ロング ダニエル	職名	教授
Research Advisor	Long, Daniel	Position	Professor
受入研究科	日本語教育学		
Graduate School/Department	Japanese language Education		

## <外国人研究者からの報告/Foreign Researcher Report>

### ①研究課題 / Theme of Research

情報通信技術の発達で教室環境にもテクノロジーの導入が広がり、テレビ会議システムを利用した日本語教育が盛んになっているし、今後も遠隔授業は海外の日本語教育を考える上で重要になってくる。特に、より効率のいい遠隔授業のために享受者側の学習者の聞き手としての言語運用能力向上が求められている。そのために、「第2言語習得者の対話運用能力としての聞き手言語行動」という研究課題の一環として、これまでの遠隔授業の経験をもとにどのような授業運営をすればいいのかについて「就活対策日本語のカリキュラム」開発に取り組んだ。

### ②研究概要 / Outline of Research

対面授業でも遠隔授業でも「双方向コミュニケーション、顔を見ながら進行、しかも同時進行」という面では共通している。しかし、テレビ会議システムを利用した空間をまたいだ遠隔授業においては、主に聞き手役を果たす学習者の積極的な参与と関与がなければ授業を運営している側としては教える内容の伝達よりも授業運営上の大変さで苦勞を欠かせない。そこで、①「第2言語習得者の対話運用能力としての聞き手言語行動」というテーマで議論の場を持つとともに、②体系的な「就活対策日本語カリキュラム」開発に取り組んだ。具体的には、日本での就職活動に必要な能力を養成するために必要な内容および就職先で必要とされる日本語能力を身につけるのに役立つ内容でシラバスを組み立てた。また、その間の遠隔授業での経験をもとに、面接ロールプレイ、グループディスカッションなどの教室活動を通し、臨場感あふれる就活対策日本語カリキュラムの試作を試みた。

### ③研究成果 / Results of Research

研究概要のうち、①「第2言語習得者の対話運用能力としての聞き手言語行動」については、滞在中2018年ヴェネチア日本語教育国際研究大会にてポスター発表を行う形で研究成果を発表することができた。また、②「就活対策日本語カリキュラム」については遠隔授業で週1回×90分の形で10回分の授業カリキュラムを体系化し、まとめることでできた(別添)。カリキュラムには授業開始から終了まで取り組む教授内容、教室活動、時間の割り当て、フィードバック、課題などを詳細することができた。今回、出来上がったカリキュラムは「読む、書く、話す、聞く」という言語の四技能以外に「探す」という能力も伸ばすことができるというメリットも考えられ、日本語教育での高い活用が期待される。

### ④今後の計画 / Further Research Plan

「就活対策日本語カリキュラム」は、あくまでも試作なので、より完成度を高める必要がある。とくに、今回は10回分の授業内容の整理に留まった傾向がないわけではない。今後、ますます増加が予想される母語話者との接触場面における第2言語習得者者の「聞き手」としての言語行動により注目する必要があるが、今回の試作では十分に生かすことはできなかった部分がある。そこで、今後の研究計画としては、その間の遠隔授業の録画映像を観察する作業を行い、ICTベース遠隔接触場面における日本語母語話者と学習者の聞き手言語行動を分析、考察する。また、対面場面との運用の差についても合わせて比較分析を試みる。

### ⑤東京と海外諸都市との相互理解・友好親善関係の推進についての計画 / Further Plan of Contribution of Strength of Mutual Understanding/Friendship Between Tokyo and International cities

首都大学で博士後取得後、韓国の慶北大学(韓国大邱市所在)に戻って、留学先である首都大学との架け橋になるために、これまで全力を尽くしてきた。具体的には、在学中、指導教官の先生から「真の日本語教育になるためには、「研究→実践→研究」の好循環が大事」だと教わったので、帰国後も博士論文の研究成果の実践ということで、首都大学が提供する遠隔教育を慶北大学の学生に実践した。それは、このような教育交流、研究交流などを通し、東京と大邱広域市との友好親善・相互理解の推進にも寄与できるものと考えていたからである。これを期に今後も、首都海外の諸都市とも研究・教育・親善などを通し友好関係のネットワークをを広げていきたい。

<受入研究者からの報告/Research Advisor Report>

①研究概要 / Outline of Research

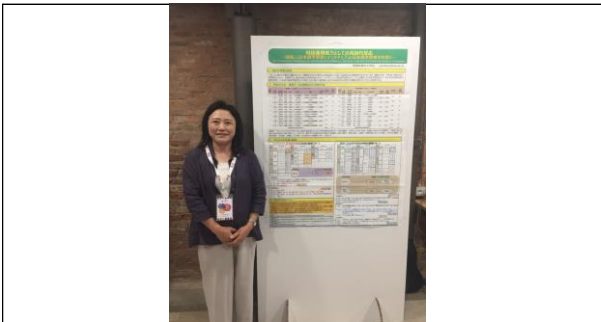
元指導教官であるロングと共同で行なっている教育実践やその効果を測る研究成果の一環として、2017年3月からTMU日本語教育学教室がKNUの日本語専攻の学生をターゲットに「就職活動の日本語」という遠隔授業を提供し始めた。受講生はTMUの日本語母語話者の指導員から企業面接に必要な対話運用能力を身につける。KNUとTMUが共同で開発している自作カリキュラムは李氏がアジア人材留学中に打ち出した「聞き手言語行動」理論に基づいたものである。李舜炯氏が訪日中に元指導教官であるロングおよび本学の大学院生と共同で聞き取り調査や実験を行ない、李氏の博士論で得られた「聞き手言語行動」の教訓を重視した「就活対策の日本語」のカリキュラム開発に取り組んだ。

②研究成果 / Results of Research

ロングの指導のもとで、日本語教育学所属の遠隔授業指導員として参加した大学院生、訪日した李氏とともに「就活対策日本語カリキュラム」の試作を完成することができた。今回の試作はこれまで行ってきた遠隔授業の試行錯誤を経て得られたものなので、実際の運用における教育効果は高いことが予想される。遠隔日本語教育では「何を教えるか」がよく議論の課題になるが、「就活対策日本語カリキュラム」は日本で就職を希望する第2言語習得者のニーズを十分に考慮した活用性の高いカリキュラムのひとつであると考えられる。また、訪日した李氏はこれまでのTMU-KNU間の遠隔授業と博論のメインテーマである聞き手言語行動を融合した形で「ICTベース遠隔接触場面における日本語母語話者と学習者の聞き手言語行動」という研究課題を韓国研究財団(NRF)の研究予算を取り、2018年9月から1年間支援されるという研究成果も確認している。

③今後の計画 / Further Research Plan

- ・「就活対策日本語カリキュラム」を活用した教育実践を通し、その成果を研究会や学会などで共同発表を行うなど、教育からまた研究への好循環を図る。
- ・今回訪日した李氏にも連携した研究成果を発表してもらおう。
- ・これまでロングの元で博論を書いて、帰国した留学生への研究機会を提供するとともに、在学院生には刺激になる良い影響を与える機会を今後も続けていきたい。



ICJLE2018年ヴェネチア日本語教育国際研究大会



就活対策日本語カリキュラム開発のための打ち合わせ  
(2018.07.25)